

民主主義 そして図書館

—金森徳次郎, 中井正一著作から—

平成7年4月25日～5月26日

今年も4月30日の「図書館記念日」、5月3日の「憲法記念日」が巡ってきました。また、6月5日には「国立国会図書館開館記念日」がやってきます。日本国憲法が謳う民主主義と、国立国会図書館との間には一見繋がりが無いように思われますが、実は当館の設立はこれと深くかかわっているのです。

国立国会図書館初代館長 金森徳次郎は憲法担当の国務大臣を務めた憲法学者。一方、国立国会図書館初代副館長 中井正一は戦時中、反ファシズム運動にも参加した美学者。この二人を中心とした人々が、戦前の反省から、日本の民主主義を支える存在として図書館に期待を託しました。

そこで今回は二人の著作を展示することにより、先達の思想を振り返り、民主主義 そして図書館について考えてみたいと思います。

<>内は当館請求記号

[金森徳次郎著作]

- 1 帝国憲法要綱 全部改訂 11 版
金森徳次郎著 <561-195>
東京 巖松堂書店 1927 343p
- 2 日本憲法民主化の焦点
金森徳次郎著 <323.4-Ka361n>
東京 協同書房 1946 103p
- 3 憲法随想
金森徳次郎著 <323-Ka45ウ>
東京 美和書房 1947 135p

表紙の絵は金森徳次郎の自筆。

- 4 国会論
金森徳次郎著 <314-Ka361k>
東京 文寿堂出版部 1947 151p
「国会の附属機構」の章で、大規模な議員の研究機関の必要性を説いている。
- 5 新憲法に於ける基礎原則特に基本的人権
金森徳次郎著 <323.4-Ka361s>
東京 世界社 1948 79p
- 6 憲法遺言
金森徳次郎著 <323.4-Ka361k >
東京 学陽書房 1959 232p
- 7 春風接人 金森徳次郎遺稿
金森徳次郎著 金森佐喜編 <289.1-Ka361s>
東京 天地出版社 1960 115p
没後1周年にあたって、夫人の編により刊行された。
- 8 憲法うらおもて
金森徳次郎著 <323.4-Ka361k2>
東京 学陽書房 1962 84p
- 9 金森徳次郎「憲法生まれし日の思い出にひたる」
国会 第5巻第5号 1952.5 8p-9p <Z1-82>
東京 国会社
- 10 書物の眼
金森徳次郎著 <049.1-Ka361s2>
東京 慶友社 1953 225p
- 11 読書と人生
金森徳次郎著 <049.1-Ka361d>
東京 河出書房 1955 197p

- 12 金森徳次郎「アメリカところどころ(四)」
読書春秋 第1巻第4号 1950.7 4p-5p <Z21-155>
東京 春秋会

春秋会は金森徳次郎を会長として国立国会図書館職員を中心に結成された文化サロン。

[中井正一著作]

- 13 中井正一全集 第1巻～第4巻
久野収編 <K25-59>
東京 美術出版社 1981 354～471p

- 14 近代美の研究 再版
中井正一著 <a704-8>
京都 三一書房 1948 151p

- 15 美学入門
中井正一著 <701.1-N339b>
東京 河出書房 1951 154p

- 16 日本の美
中井正一著 <704-N339n>
東京 宝文館 1952 88p

NHK 教養大学のラジオ講義をまとめたもの。病没直後に刊行。

- 17 中井正一「真理は見ることよりも、支へることを求めてみる」
土曜日 第22号 1936.12 1p <Z99-89>

1930年代の反ファシズム運動が生み出した文化新聞。無記名であるが、中井正一はほぼ毎号巻頭言を執筆。

国立国会図書館初代館長(1948.2-1959.5)

金森徳次郎(1886-1959)

憲法学者、政治家。1886年、名古屋市に生まれる。1912年、東京帝大英法科卒業。法制局に入り、書記官、第一部長などを経て、1934年法制局長官となる。同年、美濃部達吉の「天皇機関説」に関する答弁でその説の信奉者とみなされ、辞任にいたる。戦後は、1946年、第一次吉田茂内閣の憲法担当の国务大臣をつとめ、日本国憲法制定にあたる。1948年に国

